

## 潜在意識の変化

2005年1月25日(火)

ある経営者の方で、肩や首の痛みやコリ等の違和感を訴えていた患者さんのことである。

毎回、同じ人がストレスの反応として繰り返されていたそうだが、今回はその人のストレス反応が解消されて、その人に対する観方も変わりましたと、喜びの声を治療後に報告していただいた。

検査は患者さんがイメージされた反応を身体の変化として読み取る検査法なので、実際に患者さんが何をイメージしているかは分からない。しかし、毎回同じような症状が繰り返されている場合は、患者さんに「毎回同じ人が反応として現れていますか」と尋ねることもある。

その場合は、そのケースに必要な考え方の工夫をアドバイスすると変化が現れる事が多い。

この患者さんの場合、ある新しい従業員に人に対しての感情で、ご本人の意識ではその人に対しての嫌悪感はないが、身体への反応は「嫌い、嫌気」という感情反応を示す。

つまり、潜在意識ではそのように感じているが、意識という理性でそのようなことはないかと否定しているのである。

言い換えれば、その人のことを嫌いと思う自分自身を否定しているといったほうが分かり易いかもしれない。

その患者さんに上記のような説明をして、ご本人もそれに気がつかれたのだろう。自分では認めたくない自分の抑圧感情を認める、あるがままの自分の感情を受け入れるということで、反応が解消され、実際にその人に対する本心からくる観方も変わったとのことで、その従業員さんがよく仕事をしてきているのがさらに観えるようになったと喜ばれていた。

このような検査治療法は、自分の心を読み取られている、見透かされているのではないかと誤解を招くが、私自身には人の心を見透かす能力はない。

ただ、患者さんがイメージすることに対して、身体が反応を示すかどうかの読み取る技術  
技能を備えているだけに過ぎない。

ファミリーカイロの治療法をよく理解してくれている患者さんは、よく「身体は正直です  
ね」と言われる。

その通りで、身体のごことは、様々なデータによる固定観念よりもそれぞれの患者さんの  
「身体に聞く」という診方の方が適切な答えが返ってくる。